中年期に日本語教師職を選択した女性３名のキャリアテーマ
―異なるライフコースにおける構築の様相―

専　　攻　人間発達教育専攻
コース　教育コミュニケーション
学籍番号　M18010I
氏　　名　高橋　麻子

１．問題の所在、目的

現在の日本語学校は中高年女性の非常勤講師なくしては成り立たない。低待遇の改善が進まない仕事であるため離職率も高いが、一方で未経験から日本語学校に非常勤講師として入職し、低待遇に不満を感じながらもそれを上回る内的動機から仕事を続ける中高年の女性が数多くいる。

本研究では、「中高年から新しい仕事として日本語教師（非常勤）を選んだ女性」に注目し、中年期女性のキャリア形成の過程を考察する。日本語教師は資格取得にもお金と時間と労力を要する上に、その資格を取って仕事に就いても授業準備にかかる時間のわりに報酬が低い。非正規雇用であっても、一般的なパートとはまた違った仕事である。彼女たちのキャリア選択は，典型的なキャリア選択の例や，従来の中高年女性の典型的なライフコースでは説明しきれない、新たなキャリア選択の例と考えられる。彼女らがどのような仕事に対する態度や価値観を持っているのかを明らかにすることは、今後ますます多様化するであろう女性の働き方、女性のキャリア発達の理解につながると考える。

そこで，そのようなキャリア選択を行った女性を対象にインタビュー調査を行い、彼女たちのキャリアテーマとその構築過程について検討することとした。それまでのライフコースも踏まえながらキャリアテーマについて考察する。

２．調査１

調査 1 の目的はインタビュー対象候補者の日本語教師職に辿り着くまでの職歴を中心としたラフなライフストーリーを聞き取り、プロフィールを整理して、彼女らの大まかなキャリアテーマの輪郭を描くこと、また調査２の目的に応え得る調査対象者を定めることであった。

３名の候補者にインタビューを行った結果、キャリアチェンジのパターンが①専業主婦から日本語教師へ、②定年退職から日本語教師へ、③シングルマザーが日本語教師へと、それぞれ全く異なるライフコースを辿っていることがわかった。

各人のキャリアテーマの構成要素は複数あり、その要素は各人によって異なる。３名はそれぞれ「なりたい自分になる」「日本語という言語への哲学的関心」「外国人留学生への共感」などのテーマを持っていた。

一方、共通点として、彼女たちの日本語教師職選択にはそれぞれの中年期のトランジションが関わっていたことがわかった。また、各人のキャリアテーマは青年期から存在していたものがトランジションをきっかけに再発見、再構築されているということも明らかになった。

この３名をそのまま調査２の協力者に定めた。３名のそれまでのライフコースはまったく異なっており，本研究を進める上で適切な３名であると考えられたためである。

３．調査２

調査 2 では、サビカス論のキャリアストーリー・インタビューを用いて、その語りから得られる内容が調査１で描いたキャリアテーマを支えるものとなるのか、検討を試みた。さらに、彼女らが現在の仕事を含めたライフキャリアや自分自身について、どの程度の満足感や肯定感を持っているかをライフキャリア・レインボー・ワークシートと自己物語（ナラティブ）の文作成という方法を用いて確認した。

サビカス論の質問への応答の語りから読み取れたライフテーマについては、各人とも調査１の「日本語教師に就いた経緯」のインタビューから浮き上がったキャリアテーマとの関連性が認められた。そして、各人のライフテーマがキャリアテーマを下支えするものになっていることが確認できた。

現在の自分については、３名ともある程度またはかなり肯定的に捉えていた。将来の展望についても「現在の継続」を望んでいた。

このことから３名は、それぞれの転機で自分のキャリアについていったん立ち止まって考えたことで、彼女らなりのキャリアテーマを構築し、その結果そのテーマを実践する職場として選んだ日本語教師である現在の自分を、程度の差はあれ納得感をもって捉えていると推察された。

４．総合考察

本研究では１回目と２回目の語り全体を通してライフテーマのカギを拾い出した結果、各人のライフテーマと捉えうるものを描くことができた。テーマの構築のされ方については三者三様であった。

本研究が足掛かりとしたサビカスのキャリア構築理論では，本来、クライエントのキャリアテーマはカウンセラーとのやり取りを通して作られていくものである。しかし実際は、キャリアの悩みを抱える者がわざわざキャリアカウンセリングを受けに行くことは稀であり、多くの人は自分だけでキャリアテーマを構築しなければならない。今回の３名のキャリアテーマ構築の様相から、個人の内部におけるキャリアテーマの構築がいかにして行われるのかについての知見を得ることができた。

雇用の形や仕事に対する価値観の多様化が急速に進んでいる今、私たちは自分のキャリアを自分で管理する時代に来ている。個人が一つの会社だけで新卒時から定年まで勤め上げるという従来のキャリアモデルは主流ではなくなっており，人生の節目ごとに自分のキャリアを真剣に考えてデザインする必要があるとされている。このような考え方は、今や老若男女を問わず誰にでも有用なものであり、ますます重要性が増していると言える。そのとき，重要なのがキャリアテーマの構築だと考えられる。

本研究の協力者３名も、本人は無意識のうちかもしれないが、中年期にキャリアチェンジをするにあたってキャリアデザインを行っており、その過程で各人のキャリアテーマを構築していた。トランジションの中立圏で各々が自分の過去を振り返り、自分の今後について真剣に考えた過程があったからこそ、彼女たちは自分の核となるキャリアテーマをもって主体的に次の職業を選択することができ、低待遇や閉塞感が原因で辞めていく人も少なくない日本語教師の世界でも、やりがいを感じながら仕事を続けることができているのではないだろうか。

主任指導教員　中間　玲子
指導教員　中間　玲子